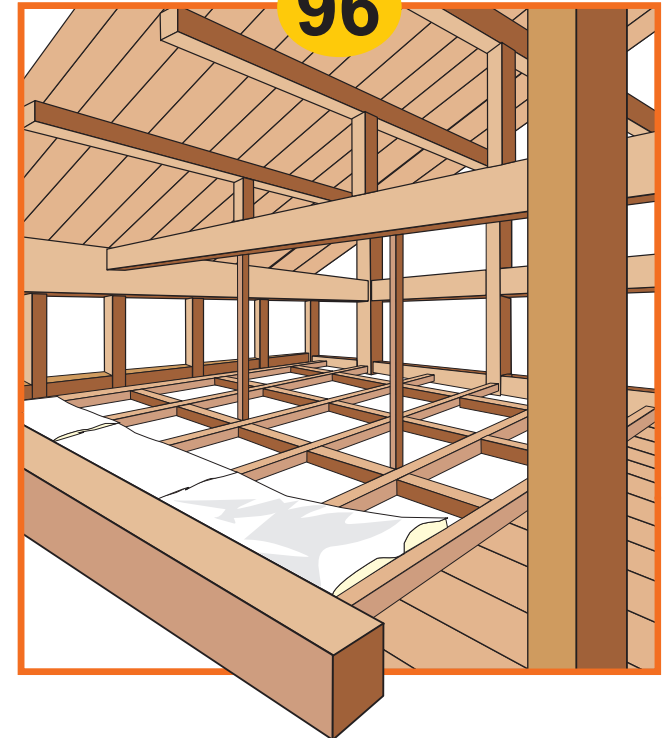


夏涼しく、冬暖かい部屋づくり 住まいの省エネ

自分でやってみよう!

セキチュー HOW TO D.I.Y

96



最近では家電品も省エネを考えたものが多く、電気代の節約にはなっていますが、そういった機器とは別に、住まい全体を見回してみると、いろいろなところでちょっと工夫すれば、さらに省エネできるということがたくさんありますので、これを参考にして、皆さんも独自の工夫をしてください。

Do it Yourself & Save

ここがポイント!



ベランダは緑に

ベランダやテラスから室内に入ってくる反射光もバカになりません。これを防ぐにはベランダに人工芝を敷いて反射を和らげるようにすると、夏には観葉植物を並べるだけでも効果があります。

南、西には落葉広葉樹を植える



夏の暑い日差しが広い葉でさえぎられ、冬は落葉して暖かい日の光が入ってくるので暖かいという、自然をうまく利用した古からの省エネの知恵といえます。

サービスのご案内



配送・ベカ便 切り売り商品 修理



返品・交換 表札・額の受注 スペアキーづくり

●クレジットもご利用になれます。



制作発行 / 株式会社セキチュー 販売促進部
〒370-1201 群馬県高崎市倉賀野町4531-1

TEL.027-345-1111(大代表)

天井裏に断熱材を入れましょう

最近の住宅は壁に断熱材が入っているのが当然になっていますが、天井裏に入っているのはまだそんなにありません。でも天井から逃げる熱も多く、特に夏は暑い天井裏が冷房の効率を悪くしていますので、効率を上げるために天井裏にも断熱材を入れてみるのが最良の方法です。

●断熱材の入れ方

○用意するもの

- ・断熱材(グラスウール) ・棒 ・クギ ・ゴム手袋 ・大型カッター
- ・ネズミよけ塗料 ・懐中電灯(またはヘッドランプ、投光器) ・渡り板

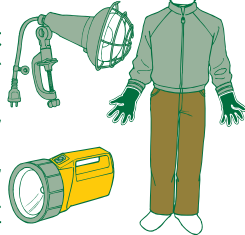
1 天井裏を見る

天井裏は押入か天袋の上に一ヶ所入っていける点検口がありますので、そこの天井板をずらして天井裏を懐中電灯で照らして見てください。天井と屋根の間に入れるかどうか、梁に乗ったり、梁と梁の間に板を渡して乗ることができるかどうか調べてみましょう。野縁や天井板はもろいので、足をかけないようにしましょう。

2 断熱材を購入する

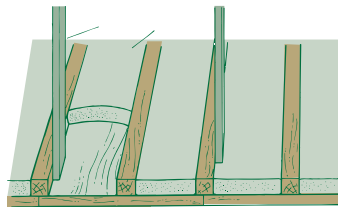
断熱材は43×137cmで厚さは50mmになっていますので、天井の広さから必要枚数を割り出し、それより何枚か多めに購入してください。切るときは大型のカッターで切断してください。

断熱材に使われているグラスウールはガラスの細かい繊維でできていて、肌にくれるとチクチクしますので、必ずゴム手袋をはめ、ナイロンのウィンドブレーカーを着て、口にはマスクをかけてから作業するようにしましょう。また天井裏は真っ暗なので、ヘッドランプがあればいいのですが、なければ投光器や懐中電灯で照らしながら作業をしましょう。



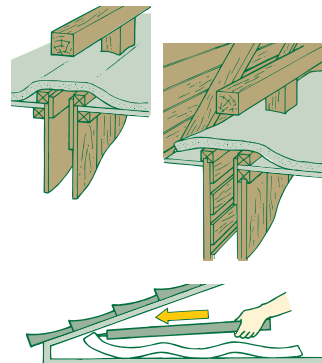
3 すき間なく敷きこむ

断熱材は野縁と野縁の間に納まるサイズになっていますので、野縁の間に文字が印刷されている面を室内側に向けて敷きこんでいきます。すき間ができたならそこに切れ端をかぶせてすき間がないようにしていきます。



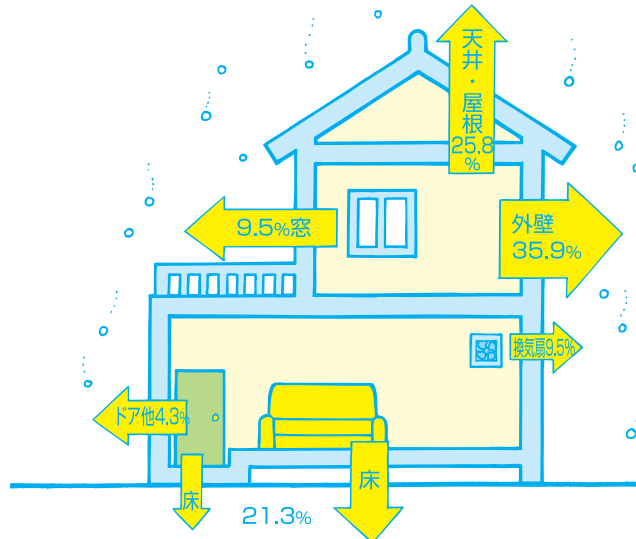
4 軒先まで敷く

手の届かない軒先の部分は、棒の先にクギを打ちつけ、頭をペンチで落としたものに断熱材を引っかけて敷くようにするとうまくいきます。天井裏の換気口はふさがないように注意しましょう。またガイシを使って電気配線をしている古い家の場合、電線をガイシ管に通すとか、断熱材に触れないように間をあけるとかしておいてください。断熱材にネズミが巣をつくる場合があるので、あらかじめ断熱材にネズミよけ塗料をスプレーしておくといいでしょ。



住まいの省エネを考えながら、夏涼しく、冬暖かい部屋づくりを考えましょう

住まいからこれだけ熱が逃げていきます。

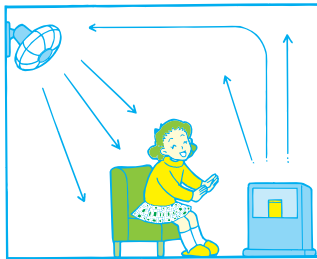


〈東京2月、暖房20℃、断熱材なし、窓は無遮断、単板ガラスの場合〉

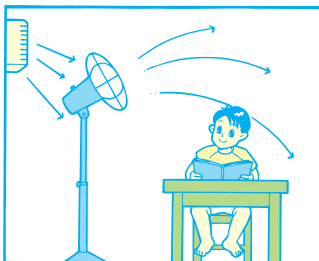
住まい各部の省エネ

リビングルーム

●暖房機具＋壁掛け扇風機
室内の暖められた空気は対流現象で上にいき、どうしても足元が冷えがちになりますので、上の暖かい空気を下に送るように、壁掛け扇風機を部屋の上部につけて、下向きに作動させると、部屋全体に暖かい空気がいきわたるようになります。



●冷房＋スタンド型扇風機
エアコンの冷気は最初は水平に飛びますが、一定の距離を過ぎると急激に下に落ちます。そこでまず、その落ちる位置を、手のひらやエアコンに長い紙テープをつけて確かめましょう。だいたいの位置が分かったらその付近にフロアスタンド型の扇風機を斜め上向きに置いて回すと、冷気がさらに遠くまで行くようになります。



台所

●足元の冷え

台所の足元は特に冷気がたまりやすいので、断熱性に優れたクッションフロアを敷き、その上に足元マットを重ねるとある程度冷たさが緩和されます。カーペットはさらに保温性がありますが、水に濡れやすい場所なので、敷くなら家庭で洗える化繊のラグタイプにしましょう。



●蛇口の水漏れ

蛇口からポタポタと水がちよつとずつ漏れていると、1ヵ月でバケツ約90杯の水が無駄になりますので、早くパッキングを交換してください。(当社のハウツーペーパー No17「蛇口の水もれストップ」をご覧ください)



●鍋の底は水分をとってから
鍋の底を濡らしたまま火にかけると、水分を乾かさなければならぬ分ガス代が余計にかかります。



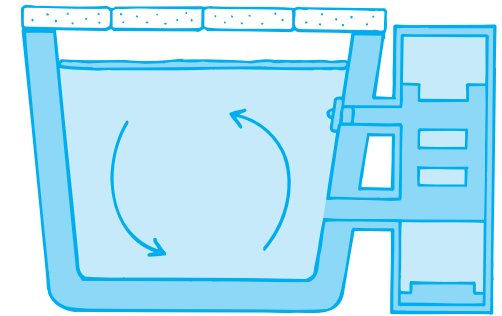
お風呂

最近は全自動給湯器が増えてきていますが、旧タイプのお風呂では浴槽に水を入れ、それを手動で沸かしていますので、うっかりしていると浴槽から水があふれているといったこともたまにはあります。それを防ぐには、一定の水量になると水流がストップするという製品が何点かありますので、ぜひつけるようにしてください。

お風呂を冷めにくくする工夫

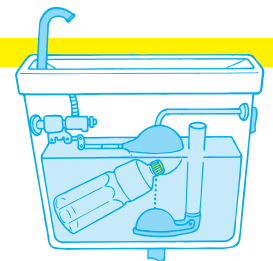
1 風呂のふたを厚くして、中ふたを浮かせる
お湯の表面から熱が逃げにくくなり、沸かすときも逆に早く沸きます。

2 二穴式の釜なら、上の穴にゴム栓を
熱の外部への対流を防げるので、冷めにくくなりますが、沸かすときには必ず必ずすようにしないと釜が壊れてしまいます。また釜の熱効率を上げるには湯アカを溜めないことです。そのために2〜3ヵ月に一度は風呂釜の洗浄剤で釜をきれいにしてください。



トイレ

●タンク内に水を入れたペットボトルを入れる
空いた大きめのペットボトル(1.5か2ℓ)に水を入れ、キャップをよく締めてタンクの中の鎖や浮き玉に当たらないように沈めると、水洗面の水を流す度にその分の水が節約できます。



●タンク内の浮き玉の支持棒を下に曲げる
曲げた分だけ今までより早く水が止まり、水位が低くなります。
※浄化槽の場合は水をあまり節約しすぎると機能が低下することがありますので、ほどほどにしてください。

